

サミットを終えて

「イワクラサミット in 宮崎」開催までの軌跡

NPO 法人宮崎文化本舗

谷口実智代

と思いますが、この「舞台裏」を一
讀いいただき、どうか容赦いただけ
れば幸いです。

●須田郡司さんに会いに行く

「イワクラサミット in 宮崎」
が開催される一年程前、日本石巡礼
中の須田郡司さんのスライドトーク
ショーが行われると聞いて、熊本市
まで見に行く。それ以前に、須田さ
んのメールマガジンを定期購読し、
「ぜひ、写真展を宮崎で開催できま
せんか?」と何度もメールを送つて
おり、直談判もかねての参加だった。
この時、主催者であったNPO法人
日本巨石文化研究所、武内一忠理事
長とお会いし、「西都原考古博物館
で九州の巨石文化を語る会を開こ
う!」という話が盛り上がり、須田
さんはその時にゲストとしてお越
しいただけたら・・と、こんな感じ
で企画がスタートした。この時点では
はあくまでも九州だけをターゲット
にしており、ペトログリフ中心で語
られることが多い九州の巨石文化に
新たな視点を提案したく、イワクラ
学会の柳原輝明事務局長に西都原ま

で来ていただき、奈良県の山添村
神野山の天文的イワクラの配置につ
いてお話ししていただけるよう、協力
をお願いした。何度かメールのやり
取りで話を詰めているうちに、柳原
事務局長から「九州での巨石文化研
究大会をイワクラ学会の全国大会と
して開催できないか」との提案を受
け、「イワクラサミット in 宮崎」
という企画がスタートした。

●助成金を申請する

前回奈良県山添村でのイワクラサ
ミット開催までは、地方自治体が主
催者であった。その後イワクラ学会
が設立され、今回から学会独自での
サミット開催となる。イワクラサミ
ットの開催を宮崎でと聞いて、一番
心配だったのが「開催資金はどうす
るのか?」ということであった。内
輪で集まって開催するような企画で
あれば、必要経費を頭数で割ればい
い。五十人集まって十万円経費がか
かつたら、ひとり二千円ずつ払えば
よいのだ。しかし、何人集まるかわ
からない。九州初のイワクラサミッ
ト。出来れば会場の定員を埋めるべ
く、できるだけ受け入れる地元でも
かならうようにしたかった。というの
も、イワクラサミットを受け入れる
地元にとっては、サミットはイワク
ラに対する世間の興味を促すきっか
けになる。宮崎は神社に祀られる巨
石が多いとは言つても、神社合祀な
どの影響で廃れてしまった神社や本
来の意味を忘れてしまい、社殿だけ
麓に移築され、「神体」であった巨石
はそのまま山中に忘れ去られている
例も少なくない。そういった巨石は、
建設などで開発により、たとえ「○
○岩」と地元で名づけられるほど大
きにされていても荒らされてしまつ
ている。地元の文化やイワクラ保存
を呼びかける啓蒙活動の一環として、

去る平成十七年七月十六日土曜日
から三日間、「イワクラサミット in
宮崎」が開催されました。大勢の皆
さんご参加いただき、心から感謝
いたします。ここでは、サミット開
催までの軌跡をレポートさせていた
だきます。至らない点もあったこと

らいは集めたい。前回の山添で役場
の方にうかがつたところ、開催には
かなりの費用がかかつたらしく。広
告宣伝費を極力カットするにしても、
チラシとポスターはある程度作らな
ければ集客に反映できない。立ち上
がつたばかりのイワクラ学会にすべ
ての経費を負担してもらうのではな
く、できるだけ受け入れる地元でも
かならうようにしたかった。というの
も、イワクラサミットを受け入れる
地元にとって、サミットはイワク
ラに対する世間の興味を促すきっか
けになる。宮崎は神社に祀られる巨
石が多いとは言つても、神社合祀な
どの影響で廃れてしまった神社や本
来の意味を忘れてしまい、社殿だけ
麓に移築され、「神体」であった巨石
はそのまま山中に忘れ去られている
例も少なくない。そういった巨石は、
建設などで開発により、たとえ「○
○岩」と地元で名づけられるほど大
きにされていても荒らされてしまつ
ている。地元の文化やイワクラ保存
を呼びかける啓蒙活動の一環として、
イワクラサミットを誘致するのは有

効的である。であれば、これは立派な市民活動だ。一般的に「ボランティア活動」と呼ばれている中でも、自然保護や環境保護活動、文化発信および観光振興といった分野に該当する。事実、いまままでイワクラサミットが行われてきた市町村では、巨石を遺跡として見る視点が根付いており、行政と連携した保存会が発足している。この効果は大きい。マスコミの対応も変わってくるし、なにより地元での巨石への意識が変わること、「ただの石」が市民権を得るの特徴がひとつ増えることになる。

地域の文化の特色を得て、日本各地から注目されることにより、その地域に暮らす方が少しでも地元に対して誇りを持つてもらえるきっかけが出来れば。若者の地元離れの歎止め、観光客などによる地域外からの外貨増資につながりはしないか。大げさかも知れないが、そんな期待を寄せてている。

市民活動の活動資金は、多くは会員による会費、または地方行政の補助金などでまかなわれる他に、各種ボランティアの方々といつしよさ

団体による助成金というシステムも利用できる。ただし、企画書をともに限られる。今回のサミットに先立ち、サミット開催の助成金を宮崎県の行政と国際交流を支援する団体、全国組織を有する福祉団体に対して申請した。はつきり言って宮崎でのイワクラ学会の知名度はゼロに等しい。手伝ってくれるスタッフもいないので、いざとなつた時、資金がないれば現場スタッフのアルバイトを雇うことも出来る。まず、資金調達からスタートすることにした。

●仲間探しからはじめてみた

助成金申請と同時にボランティアスタッフの募集も開始した。私は仕事の休みが不定期なのと、まだ小さい子供を抱えた主婦なので、イワクラ調査はもっぱらひとりで行う。つまり、組織としては動いておらず、このような企画と一緒にこなしていくチームはない。遅ればせながら仲間探しから始めるしかなかった。

会だと思った」など笑ってしまうような話を聞いた。おそらくこの誤解は集客にも影響を及ぼしていたと思われるチームはない。遅ればせながら仲間探しから始めるしかなかった。私が勤めている団体はNPO法人で、ボランティアの方々といつしよさせたいただくことは多い。しかし、

●学会の壁

ボランティア募集で苦戦した「イワクラサミットとは」という説明は、ミット開催にあたり、宮崎県内のマスコミ各社と行政機関や教育委員会の名義後援を申請した。これは、サミット開催告知をスマートに行う目的で、イワクラというものへの行政イベントへの参加は奉仕作業をする「おう」といった解りやすい目標のあらじと名乗り出してくれる人は多い。しかし、なんの集まりかよく解らないイベントへのお手伝いを賣つて出てくれる方は皆無に等しい。結果から言うと、一般公募で応募してくれたボランティアの方は一人しかいなかつた。後でよくよく話を聞いてみたら「宗教団体の総会かと思った」「全国の『イワクラさん』という苗字を持った人の集まりかと思った」「どこかの大学の研究機関が行う大会だと思った」など笑ってしまうよ

は、県の動向で許可を判断しようと様子をうかがっていたほかの行政機関まで許可がおりない。却下の理由は「イワクラ学会の全国大会」というイベントには公共性が認められない」というものだった。一団体の会員による私的な会合と判断されたのだ。私は担当課にも一度出向き、担当者とその課の責任者に対して今までのイワクラサミット開催の経緯、そしてイワクラ学会の役員、会員にどのような方々がいるか、各地でどのような活動をしているか、またサミットが行われた地域のその後の様子などを説明した。結果、窓口を地域振興課に変更して後援申請は受理された。がしかし、申し込んだ助成金申請はことごとく落ちてしまった。「イワクラ学会」という他団体のイベント開催の助成金申請を、なぜ他のNPO団体が申請するのか、その複雑さがひつかったのかもしれない。資金ゼロからの自力での開催を余儀なくされた。

●自力でのサミット開催 助成金を受けることも出来ないと

なると、開催資金を「稼ぐ」為にも集客しなければいけなくなつた。つまり、参加者から参加料をもらつて開催資金に当てるのだ。しかし、後援申請やボランティア募集の時点で宮崎で「イワクラ」の市民権を得るこの難しさは身にしみている。まさかコンサート並みの入場料を取るわけにはいかない。料金設定は「映画一本分」の千五百円。券買方法は通信販売の手間と経費負担を軽減するために、ローンチケシートで販売をすることにした。何人集まるかによると、これだけでは少し不安だった。そこでプログラムを作成し、それに掲載する広告収入で足りない分を補おうと考えた。このノウハウは毎年地元で行われている映画祭のものを参考にさせてもらった。丁度映画祭の準備の時期と重なり、あわせて営業にまわつたが、ボランティアも集まらず、いくら仕事として動かせてもらつてはいるとは言つても一人で動くことの限界はある。思うよう広告は集まらず、学会を通じて会員の皆さんに広告の協力を呼びかけてもらつた。おかげさまで多くの

広告をいただき大変助かりました。
本当にありがとうございました。

●バスがない！

会場となつた宮崎県西都原考古博物館は、宮崎屈指の観光地・西都原古墳群の中に位置する真新しい施設だ。ここでの開催が決定してから、参加者向きの案内状を作つてみると、決定的な事実に気付いた。西都原まで公共交通機関が極端にないのだ。西都市内まではバスしか走つてない。そのバスも西都原古墳群までは一日一往復しか走つていらない。

その便も学校休日は運休。つまり、土日祝祭日はまったく公共交通機関は走つていないらしい。これは困った！ 宮崎で唯一のバス会社は産業再生機構のお世話になつており、ある程度の集客が見込める確約が取れないと、臨時バスは運行してくれないと言ふ。県や市の観光課に相談したところ、臨時バスを走らせるためだけの助成金の空きはなかつた。県外からの参加者のためになんとか臨時バスを走らせたい。単独で無理か？ と急遽応募したのが「ふくわざリズム」だった。会場となつた西都市も現地調査で行く予定だったえびの市もグリーンツーリズムの盛んな土地で、それぞれ活動されていらっしゃる方々に協力を要請していたので、企画としては成立している。しかし、夜、地元料理を食べて、次の日現地調査で各地を回るだけではあまりにもイワクラ学会の特色が強すぎ、モニターツアーにできるような一般性に乏しい。ならばぜひ神楽の講演を盛り込みたいと思い、地元を依頼した。結果、「季節はずれのこ

の時期に神楽が舞える地区は銀鏡（しるみ）しかなし！」と、「う」とで、国指定重要無形文化財の銀鏡神樂の公開が実現した。夕食は西都市の婦人会のみなさんに郷土料理をお願いした。次の日は現地調査予定のえびの市・西川北地区の区長さんにお願ひして地元料理を昼食で出してもらひえることになつた。そして事前に東霧島神社に出向いて神主さんにお話ししてもらひるように依頼した。

このような形で宮崎県のふるさとツーリズムスタートアップ事業としても充分通用するプランを企画し、助成金を申請した。これにより臨時送迎のバス代と神楽の公開が実現できようになつた。

●開催広告大作戦

以上のような開催告知のプレスリリーを十日に一回の割合で行つた。知り合いの記者にお願いして開催告知を掲載してもらひう。しかし一度掲載した内容は、何度も掲載してもひつわけにはいかないので、手を変え品を変え取り上げてもらひえるよう

に工夫する。うれしいことにトーキングエストの須田郡司氏の「好意で、プレ・イワクラサミット企画として「世界のイワクラ」写真展を入場無料で行うことが出来た。これはマスコミ各社に取り上げてもらい、サミット開催告知の大きな味方になつた。ラジオ出演、ケーブルテレビにも出演した。雑誌にも取り上げてもらひつた。

あまりに忙しいため、自分が発表す

ることはまったく考えていなかつた。

かわりに「宮崎にはこんなイワクラがあるんですよ」と例の北斗七星のイワクラをマスコミでアピールして

いたため、急に自分が発表することになり、ものすごく焦つた。開催日

が近づくと資料作成やプログラムの印刷などに忙殺される日々が続き、

その合間に縫うようにマスコミの取材と、そしてほぼ毎日「お客様」が尋ねてくるようになつた。「テレビを見て興味を持った」と、「高齢

の方々はコンビニには行かない。前売り券の売れ枚数が遅々として伸びないのも、この辺りの事情があるようだ。前売り券は売れていないが、反応は確実にある。当日券の結果に任せるしかなかつた。

●ふりかえってみて

サミット開催日の三日くらい前から

の記憶が定かではない。おそらく自分の能力の限界を越えていたのだと思う。結果がどうであつたか、その評価は参加された方々個人にお任せしたい。ここでは締めくくりに受

入実行委員として、今後のイワクラ

サミット開催への提案を二つ程させていただきたい。あくまでも個人的な感想のようなものなので、参考にしていただければ幸いだ。

イワクラに興味を持つてくださいるうか。

③ 全国的な開催告知作戦。

まずは①は、開催資金のこともある

が、一番の目的は自治体への啓蒙に

ある。開発によるイワクラの破壊を食い止めるために、開発主である場合が多い自治体へ、イワクラが文化遺産であることを認識してもらい、

地元全体でサミットをもり立ててもらうことの意味は大きいと思う。イ

ワクラサミット開催が主ではなく、イワクラ保存を効果的に呼びかける

イワクラサミットのあり方があつても良いのではないかだろうか。できれば参加費を取らずに開催できると集客はもっと増える。

次に②であるが、各地の学会員で組織的な活動をされている場合は問題ないだろうが、私のように個人で活動をしている場合、どうしてもスタッフ不足が一番の課題である。今

回は事務局の高橋氏がサミット開催前から宮崎入りしてお手伝いいただいたので、とても助かつた。このよ

うに、近隣の県や時間のとれる会員

が積極的にサミット開催に関わって

もうえると、個人負担が軽減できるだけでなく、質の高いサミットを開催できるのではないだろうか。

最後に③であるが、サミット開催告知が大会の成功を左右する。初めてサミットを行う土地では、まずイ

ワクラとはなにか、イワクラサミットとはなにかという説明を繰り返し、マスコミや関係機関の協力を得るまでに相当の時間を要する。地元への理解を得ることは必須であるが、たとえば過去の開催地や学年負が多くいる地域のマスコミで「あのイワクラサミットが今度は〇〇県で行われる」というような告知をしてもらえると、開催地への強力な擁護となる。また、学年負の積極的なイワクラサミットへの参加を促すことになるだろう。

以上が「イワクラサミット・宮崎」の舞台裏だ。あれから一ヶ月が過ぎた。まだ報告書の作成などが残っているので終わつた気がしないが、サミットの宮崎での効果は着実にあがつてきている。ついに宮崎に遊びに来てもらった時、誰に聞いて

もどこかのイワクラに案内してもらえる、そんな宮崎になつていいことを探りつつ、皆様に感謝の意を表したい。本当に、お世話になりました。また遊びに来てください。